

## 二十歳になった息子へ

神奈川西支部 石黒まゆみ

私の息子として産まれて二十年。小さい時から私を困らせず、聞き分けのいい子でした。ある時、聞いた言葉で「乳児は肌を離さず、幼児は手を離さず、少年は目を離さず、青年は心を離さず」というのがあります。この言葉を心に育ててきました。そして、息子を育てることでいろいろと体験することもできました。これからはずっと心を離さずあなたに寄り添い見守っていきます。

4月からは法学部3年生になります。まだ自分は何に進みたいのかが具体的にならず、社会人になる実感もないようにも思いますが、興味のあるもの、自分の目標を見つけ出し、一生の仕事に就けるよう願っています。まだまだ悩むこと、挫けそうになることも



→成人式を迎えた息子と

あると思います。でも大丈夫。乗り切る力をあなたは持っています。中学、高校、そして大学と友達に恵まれました。一生の財産です。あなたに関わってくださる人に感謝の気持ちを忘れずに、困っている人を助ける優しさを忘れずに残りの大学生活が充実するよう過ごしてください。あなたの未来が素晴らしいものになるようにいつも見守っています。